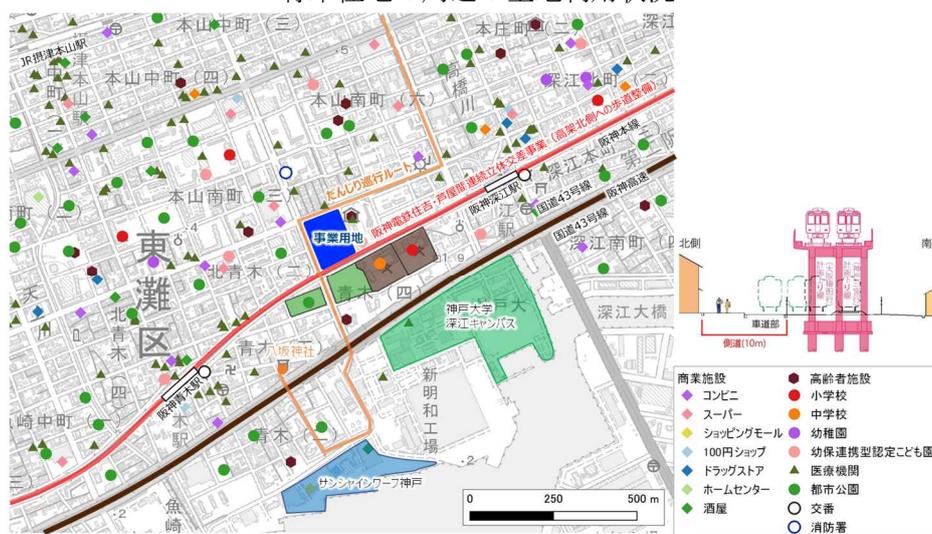


参考資料2 青木住宅の立地特性

- 青木住宅の周辺には、阪神青木・深江駅の周辺や幹線道路沿いを中心に複数のスーパーやドラッグストア等の大型店、スポーツクラブなど一定数の商業・サービス施設、医療・福祉施設、文教施設（本庄小・中学校等）、都市公園（本庄中央公園等）等の公共施設の集積が見られ、青木住宅が生活利便性の高い立地にあることがうかがえる。
- 青木住宅周辺の青木・深江地区には、長い歴史を有しコミュニティ活動が活発な市街地が形成されている。東灘区には東灘だんじり会があり、八坂神社（南側）と森稲荷神社（北側）の間を練り歩くだんじり祭りが毎年5月に開催されており、青木住宅の周辺もその巡行ルートの一つになっている。
- 青木・深江地区には、神戸市を代表する住工混在エリアが形成されており、国道43号の南側には、長い歴史を有する酒造業や航空機関連等の開発・製造拠点、神戸大学深江キャンパス（旧神戸商船大学）が立地している。また、一方でサンシャインワープ神戸（旧東神戸フェリーターミナル跡地）など大規模商業施設等への土地利用転換も進んでいる。
- 阪神電鉄では住吉・芦屋間連続立体交差事業が実施されており、事業用地の南側に面した市道において歩道の拡幅整備が進められている（事業期間：平成4年3月～令和8年3月（予定））。
- 青木住宅は、交通利便性が高く、歴史・地域資源の豊富な地域コミュニティが成熟した地域にあり、周辺に一定の都市機能集積がみられるなど生活利便性の高い地域に立地している。また、連立事業による生活動線の分断解消や歩道拡幅による生活環境改善、高架下の新たな公共的空間の利活用の計画が進むなど、今後ますます地域の活性化が期待されるポテンシャルの高い地域に立地している。

青木住宅の周辺の土地利用状況



（出典）神戸市ホームページ：阪神電鉄本線連続立体交差事業資料より抜粋、国土数値情報ダウンロードサービス、国土地理院ウェブサイト「地理院地図」を加工して作成